

1 本年度の重点目標

1	<学習指導> 基礎・基本の定着と、授業の質の向上による学力の向上を図る。 自学・自習の学習態度を養い、家庭学習習慣の確立と家庭学習内容の充実を図る。
2	<生徒指導> 基本的な生活習慣の確立と、他を思いやる心、協力奉仕の精神を育む教育を推進する。 規範意識の醸成に努め、事故や盗難等のない安全安心な学校づくりに努める。
3	<進路指導> 面談等を通して生徒の自己理解を深めさせ、在り方生き方教育としての「志教育」を推進する。 生徒の自己実現のために、3年間を見通した系統的・組織的な進路指導の一層の推進に努める。
4	<保健衛生・安全教育・防災教育> 生徒の心身の健康保持と体力増進を図る。 交通安全の意識高揚を図り、事故の未然防止に努める。 防災教育を通して日常の安全点検や避難訓練の充実を図り、地域社会と連携して危機的状況にも対応できる学校を目指す。

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

自己評価結果・自己評価の適切さ A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない  
改善策の適切さ A 適切である B おおよそ適切である C あまり適切ではない D 適切でない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	取組及び改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	① 基礎・基本の定着	B	1・2年次では概ね達成できているが、それをどのように3年に繋げていくかについて、工夫していきたい。	B	B
	② 家庭学習習慣の確立	B	概ね達成できているが、1・2年次での家庭学習時間をもっと増やすように、調査や面談を行うなどの指導をしていきたい。	B	B
	③ アクティブラーニングの指導	B	アクティブラーニングを取り入れた授業は多くなってきている。また、総合的な学習の時間の取り組みが、教員にとっても生徒にとってもアクティブラーニングの経験の場になっている。今後も教科毎に研究・工夫を重ね、研究授業などによりその確認や検証を行っていきたい。	B	B
	④ 授業の質の向上	B	今年度は、授業互見を例年以上に充実した形で行うことができたので、各教員自身を持つ授業スキルやその工夫方法の情報共有につながり、更なる質向上のきっかけにすることができた。今後も日々の教材研究はもちろんであるが、各教科で研究授業や授業互見週間などの校内研修を充実させ、更なる授業の質向上を目指す。	B	A
学校関係者評価委員会における意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価結果から学習指導と授業の質の向上について教員の工夫が見られる。</li> <li>・説明の仕方や板書の仕方について、生徒の授業評価で肯定的な回答が90%を超えていないのは、教員が努力して工夫している姿や思いが生徒にうまく伝わっていないからではないか。</li> <li>・マーケティングの視点で、ユーザー（生徒）の思いをうまく吸い上げる取り組みをしてみてはどうか。</li> </ul>			
生徒指導	① 基本的な生活習慣の確立	B	学校全体で取り組むことができている。生徒が主体的に学校生活を送れるように、継続して働きかけをしていきたい。	B	B
	② 規範意識の醸成	B	前期は数件の盗難やいたずらがあった。特別指導も前年の3倍と多く発生していたが、後期に入り落ち着いてきている。今後とも今の状態が続くように、担任や各部と協力していきたい。	B	B
	③ 交通安全教育の推進	B	自転車事故については、昨年より10件減少した。しかし、自転車運転のマナーについては、近隣の方々よりお叱りを受ける機会が多く、マナーの意識向上を図る必要がある。	B	B
	④ 特別活動への積極的取組	A	部活動や生徒会活動、学校行事など、どれも積極的に取り組んだ。	A	A
学校関係者評価委員会における意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内でいじめによる自死が起こっている。身近な問題として捉え、早めの対応をすることが大事であり、命を大切に指導を行ってほしい。</li> <li>・自転車事故が発生しているので、生徒への交通安全指導と注意喚起を強化してほしい。</li> <li>・学校周辺の通学路の道路状態を確認して、危険な箇所があれば警察や役所に相談することが必要だ。</li> </ul>			

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	取組及び改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
進路指導	① 自己理解と志教育の推進	B	より高次の進路目標を設定させ、卒業後という出口だけでなく、将来社会人としてよりよい生き方を生徒が主体的に求める力をつけさせることを目的として、各種講演会を実施した。また、個人面談にも重点を置いた。今年度は生徒の面談用紙を作成し、振り返りや今後の展望などを書かせることにより、学習活動や進路探求の機会を持たせた。	B	B
	② 積極的な進路情報の発信	B	「進路情報」の発行だけでなく、個人面談での情報提供も昨年度以上にできた。大学の改組による学科変更や入試科目の変更についての情報提供も円滑に行った。今後予定されている大幅な入試改革については、まだまだ不透明な部分があり、現段階で明らかなことだけでも教員に情報を提供した。今後も注視し継続的に情報発信したい。	B	B
	③ 組織的な進路指導体制	B	組織として進路指導を進める上で、「やらなければならないこと」を徹底し、業務内容の優先順位を明確化した。また、組織は人の集まりであるから、単に目的を遂行するのではなく、組織を構成する人を育てるという目的を持って取り組んだ。今後さらに本校の問題点を解決するためには何から手をつけるべきなのか、何を継続すべきなのか、などを検討していきたい。	B	B
	④ 第一志望校への進路達成	B	今年度の進路決定状況が確定していない現時点で、第一志望校への進路達成度を把握することはできない。しかし、約8割の生徒は年度始めに定めた第一志望校を変更しておらず、目標に向かって粘り強く努力していることが分かった。	B	B
学校関係者評価委員会における意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導を充実させるために、社会人講話で様々な成功体験を聞かせたり、大学の研究室を訪問して研究内容を学んだりする機会を作ってはどうか。</li> <li>・外部の人材を活用して生徒の志を高めさせ、将来への目的意識を持たせるように取り組んでほしい。</li> </ul>			
保健・安全・防災	① 生徒の健康保持と体力増進	B	健康診断を全て実施し、その後の再検査の連絡や指導を行った。また、今年度から検査結果をまとめて生徒一人ひとりに配付した。今後とも引き続き生徒の健康管理に努める。	B	B
	② 学校環境の整備と美化推進	C	問題点改善のため、しっかり大掃除の時間を確保し実施する。生徒による清掃点検を定期的に行う。また、業者によるワックス塗布やトイレ清掃を実施する。	C	B
	③ 心のケアと教育相談体制	B	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、生徒・保護者への適切な対応ができた。今後も協力し合い生徒の心のケアに努めていく。	B	B
	④ 防災教育と避難訓練の充実	B	防災教育については計画通りに取り組んできた。今後は避難開始時間を予告しない避難訓練を実施する予定である。次年度は救急救命講習会を実施し、多くの教職員に参加を促す。	B	B
学校関係者評価委員会における意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校美化のために清掃道具を十分に揃え、生徒が皆で清掃活動に取り組むことが大切である。</li> <li>・トイレがきれいになると学校の雰囲気が変わるという経験をしている。業者委託でのワックスがけやトイレの清掃を導入してはどうか。</li> <li>・夏の暑さや冬の寒さに対して、生徒が学習に集中できるように教室の学習環境を整えてほしい。</li> </ul>			

### 3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
① 授業の質の向上	授業評価の結果を分析し、アクティブラーニングやICT活用などを通して授業改善を行い、生徒が「分かる授業」を実践する。
② 進路指導の充実	社会人など外部の人材を積極的に活用して社会人講話や大学見学、課題研究、キャリアセミナーなどを行い、生徒に高い志や進路意識を持たせる。
③ 学校環境の整備と美化推進	清掃活動を徹底して学校美化を推進し、生徒が落ち着いて学習に取り組めるような学校環境を整備する。